

企業・銀行間におけるスイッチングコストの計測 －関西地域における信用金庫のデータを用いて－

神戸大学大学院 中岡 孝剛

近年では不良債権問題の露呈を皮切りに金融機関の再編が進んでいる。大手都銀や有力な地銀は経営体力を回復させ、再編は落ち着きを見せているが、地方における資金需要の減少や経営体力の低下などから信用金庫や信用組合などの地域金融機関において今後も再編が進むと考えられる。このような市場構造、あるいは経済状況の変化はその地域における貸し手と借り手の取引関係に影響を与え、特にその地域に営業が限定されている信用金庫や信用組合においてはその影響を受けやすい。また個々の地域金融機関特有の要因が取引関係に影響を与えていると考えられる。このような影響を見ることは、今後一層進むと考えられる信用金庫や信用組合などの地域金融機関の再編を考察する上で重要な手がかりとなる。

そこで本稿では企業・銀行間におけるスイッチングコストを計測し、その計測されたスイッチングコストと銀行固有の要因とその地域における競争要因、そして経済環境との関係を実証する。これまでスイッチングコストに関する研究は、理論分析が中心であり実証的な分析は少なく、またそれはスイッチングコストの推定に関する分析である。本稿における貢献は企業・銀行間のスイッチングコストに与える影響を分析したことであり、関西地域における信用金庫のデータを用いて分析を行なった。その主要な結果として、スイッチングコストと銀行規模は逆 U 字型の非線形な関係が示され、これはスイッチングコストの観点からの最適規模が存在することとなり、今後さらに進展すると考えられる信用金庫の再編に対して示唆を与えるものである。